

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



活 用 事 例

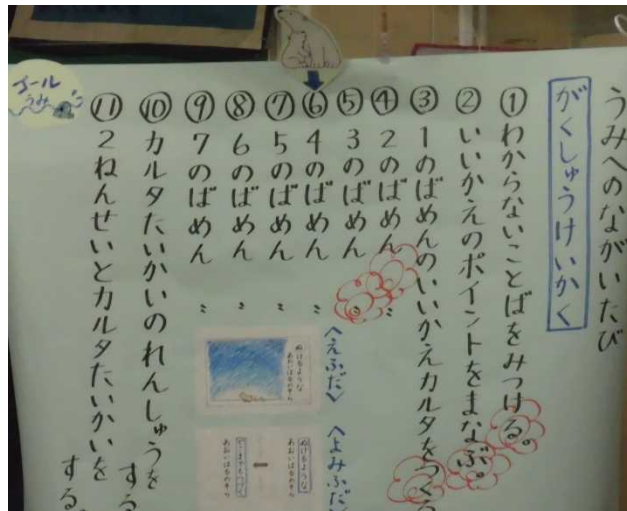


| 概 要 | |
|---------|---|
| 学 校 名 | 我孫子市立湖北小学校 |
| 活 用 方 法 | 単元計画及び本時の展開に4つの学習過程を位置付けている。特に、「見出す」の部分で児童が学習に見通しを持って取り組むこと、言語活動を大切に学習に指導の重点を置いている。 |
| 成 果 等 | 活用することで、児童が主体的に学ぼうとする姿勢や友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり新たな思考を構築したりする力が身に付いた。 |

単元計画への位置付け

| 次 時 | 時 数 | 学 習 内 容 |
|---------------------------|-----|---|
| 一 次 | 1 | 教師の見本を見たり、自分の見聞を知り、学習計画を立てる。 |
| 一 次 | 2 | ○全文を読み、わが国を表現する。 |
| 二 次 | 3 | ○どのようにしたか、何を考えたか、くいかえのポイントを、動きをやって、写真をよく見、言葉の前と後、友達と相談する。 |
| 自 分 で 取 り 組 む ・ 広 げ 深 め る | 4 | ○1の場面のわかりを言い換えて、 |
| | 5 | ○2の場面のわかりを言い換えて、 |
| | 6 | ○3の場面のわかりを言い換えて、 |
| | 7 | ○4の場面のわかりを言い換えて、 |
| 本 時 | 8 | ○5の場面のわかりを言い換えて、 |
| | 9 | ○6の場面のわかりを言い換えて、 |
| | 10 | ○7の場面のわかりを言い換えて、 |
| 三 次 ま と め あ げ る | 11 | ○学級でカルタの |
| | 12 | ○2年生を招待し |

見通しを持つための掲示物



学習のゴールに向けて、実質的な言語活動を充実させた。児童の多様な発想や語彙を広げたり、多くの語彙を獲得させたりできるように掲示した。